

優良賞

「僕たちはみんなつながっている」

智辯学園中学校 二年 俵 正憲

「僕一人くらいなら」

「そんなにきちんとしなくてもいいだろう」

今まで僕は、自分のことしか考えていない自分本位な生き方をしてきました。そんな僕の考えが少しずつ変化してきたのは新型コロナウイルスの大流行がきっかけでした。

僕の父は、障害者支援施設で管理者をしています。母も、ずっと高齢者の方々に関わる仕事をしています。

二年半前、新型コロナウイルスがニュースで大きくとり上げられるようになると僕の家ではかなり徹底した感染対策がとられるようになりました。

玄関には、空気清浄機が登場し、外から持ち帰った荷物を置く棚と着替えができる更衣ブースを父は制作しました。

僕は家に帰ると玄関に置かれているアルコールスプレーで消毒をして荷物は玄関の棚にそして丁寧に手洗い、うがいをすませ、着ていた服は全て脱いで浴室でシャワーを浴び、ようやく共用スペースであるリビングに入れるのです。

その当時、僕は周りの友だちの家の対策と比べても明らかにやりすぎだと思われる僕の家への感染対策に不満がつり「そこまで徹底するのはおかしすぎる。大丈夫やって。なんて僕の家だけここまでせなあかんの」と父と母に怒りをぶちまけました。

父は、「正憲の気持ちもよく分かる。でも少し聞いてほしい。パパもママも毎日、障害をもった方や高齢者の方に接して仕事をしている。その人たちの中には、体力のない人や持病を持った方が大勢いるんやで。そういった人たちをもし感染させてしまったら重症化して命にかかわる事態になることもあるんや。自分は元気だから大丈夫じゃなくて、もっと広い目を持って周りの人の事も、しっかり考えた行動ができるようにならなあかん。目に見えないウイルスだから、どこで感染するか誰にも分からないし徹底した対策をしても感染する可能性はある。だけど、今、自分とみんなのために、できる限りの対策をとっておくことは大切やとパパは思う」と言われました。

その父の言葉を聞いて、僕は今まで「そこまでするのは面倒くさい」と、ただ自分本位な考えしか持っていなかった僕に気付き反省しました。父の言うように、もっと広い目でみると、僕の行動が周りの人に、それから、周りの人に関わる人に、そしてみんなにもつながっていることに気付きました。

二年以上たった今、新型コロナウイルスは何度も感染拡大をくり返しながら、まだその影響は続いています。僕の周りでも、コロナに感染した人や濃厚接触になった人も増えてきています。今までの僕は「自分は大丈夫なのか」と自分の心配しかできなかったけれど、今は「感染した人は大丈夫だろうか」と相手をまず心配できるようになった僕がいます。同じ時代を生きる僕たち一人一人が自分に何ができるのかを考えて、それぞれができる範囲での行動をして人を思い、みんなを思いやる心でいっぱいの世界をつくれたらいいなと僕は思います。

僕の家では、新型コロナウイルスが流行って二年以上たって緊急事態宣言が解除されても、まだ遠出や人の多い場所にも行くことができていません。でもベランダには父特製のおうちカフェスペースができました。家族でスポーツをしたり山にハイキングに出かけたり今までと違った楽しみもできました。

僕が新型コロナウイルスの大流行から学んだことそれは、人はみんなつながっていること。お互いに思いやる行動をとること。新型コロナウイルスの大流行がマイナスイメージだけで終わらないためにも僕は、このコロナからの学びを未来につなげていきたいです。